

山梨県・甲斐善光寺について ～戦国期の歴史ロマン映す～

日本不動産研究所 甲府支所
不動産鑑定士 杉本 裕昭

1. 甲斐善光寺の起源

善光寺といえば、「牛に引かれて善光寺参り」で有名な信州善光寺を思い浮かべる方が多いと思うが、山梨県にも甲斐善光寺がある。

何故、山梨県に善光寺があるのか？きっかけは、武田信玄と上杉謙信の戦いで有名な「川中島の合戦」である。川中島の合戦は1553年～1564年までの11年間に5度の合戦が行われた。1555年の第二次合戦で上杉謙信が善光寺裏の城山に布陣したことから、武田信玄は善光寺が戦禍に巻き込まれることを恐れ、善光寺の本尊如来像をはじめ仏像、仏具のすべてを佐久郡（長野県）に移す。その後も合戦が続いたことから、1558年に本尊、仏像、仏具をはじめ善光寺大本願第三十七世智冠鏡空上人から僧徒すべてを甲府に移し、甲斐善光寺を建立した。これが、甲斐善光寺のはじまりである。



「武田信玄像」

2. 善光寺本尊の流転

善光寺本尊は、三国伝来の阿弥陀如来と云われる日本最古の仏像であり、戦国時代では権力の象徴でもあった。

信玄没後の武田家は1575年に「長篠の合戦」で敗れ勢力を弱め、ついに1582年3月「天目山の戦い」（山梨県甲州市）で織田徳川連合軍に滅ぼされる。そして、善光寺本尊は勝者の織田信長の手に渡り、岐阜（現在の岐阜善光寺）に移る。しかし、信長が本尊を手中におさめていたのは実にわずかで、同年6月明智光秀による「本能寺の変」で信長は命を落とし、本尊は信長の次男信雄により、尾張清洲甚目寺に移される。

また、その翌年（1583年）には、勢力を失った織田家から交渉により徳川家康が本尊を手に入れ、浜松の鴨江寺に移す。しかし、その後、家康の夢枕に善光寺如来が現れたことで、家康は本尊を再び甲府に戻す。

1596年京都で慶長伏見大地震が起これ、方広寺（1595年に豊臣秀吉が奈良・東大寺にならって建立した寺）の大仏殿が崩壊したため、その代わりに秀吉は善光寺本尊を方広寺に勧請安置して礼拝することを思い立ち、1597年甲府より京への移送を命じる。この頃より、秀吉は病により体調を崩し、無理に本尊を移したことから「善光寺如来（本尊）の祟りだ」と噂されるようになる。そして、病が悪化した秀吉は翌年（1598年）9月17日、本尊を信州善光寺に向け帰還の途につかせたが、その翌日9月18日に秀吉は亡くなる。

こうして、善光寺本尊の約40年にわたる流転の旅が終わった。

3. 現在の甲斐善光寺

信玄の建立した善光寺は近隣農家の失火により1754年焼失。その後、中興癡誉寿看上人等が再建のため奔走し、30年余りの歳月を経て、1796年に現在の金堂が完成した。金堂は撞木造（屋根の上部からみるとT字型に見える独特の建築様式）で、梁間23.6m、側面桁行38m、高さ27m、建坪310.8坪で信州善光寺よりやや小さいが、東日本屈指の大型木造建築物である。正面厨子床下には信州善光寺と同じく戒壇廻りがあるほか、金堂中陣天井には日本一の鳴き龍がある。また、本尊は信州善光寺に戻ったが、甲斐善光寺には信玄により招来された信州善光寺の前立本尊であった在銘最古の阿弥陀三尊像（甲斐善光寺の現在の本尊）はじめ、歴史ある仏像、仏具が多数保存されている。



「金堂（甲斐善光寺の協力のもと写真撮影）」



「鳴き龍（写真提供、甲斐善光寺）」

記事をご覧になった皆様、歴史ロマンを感じながら、甲斐善光寺に是非お越しください。